

## STE (Shiroi Teaching Expert) の授業紹介 No. 11



### 白井市立桜台中学校 中島 淳 先生 (理科)

12月13日(月)、3年生の理科の授業でした。「天体の1年の動き」の学習で、地球の公転と見える星座にはどのような関係があるのか、実習をとおして考えていきました。

本時の学習課題、実習の仕方の確認をスクリーンで行った後は、ほとんどが生徒の活動時間でした。難しい内容ですが、互いに考えを出し合いながら、公転する地球と周りの星座との関係を身振り手振りで説明し合っていました。分かったことをタブレットを使って提出し、発表につなげていました。

#### 工夫1 自分たちで考える時間の確保

「指導文化」からの脱却。「教師が教える」のではなく、生徒たちが自分自身で考えを深め、授業を作っていました。授業の始めに1時間の流れを示した後は、生徒たちの活動時間でした。「南ってどう考えるんだ?」「あれ、分からないな。」生徒からたくさんのつぶやきが出て、その声で周りの生徒が反応して対話が生まれていました。

「ああそうか。」そんな声もあちらこちらから聞こえてきました。



#### 工夫2 自分の考えが明確にもてる授業づくり

明確な課題提示と活動の時間の確保。しかし「自分たちで」と言っても、なかなか自分の考えがもてない生徒もいます。その生徒にどうアドバイスするか。中島先生はいつ、どのようなアドバイスをすればよいのか、しっかりと生徒の様子を見取りながら教室内を回っていました。そして、班での話し合いにつなげていました。そこで大切なことは「分からない。」と自分から言える雰囲気づくりです。学校支援アドバイザーの田中先生がよくおっしゃっていることです。STE授業紹介でもそれがキーワードになってきています。



#### 工夫3 ノートの工夫 (教科書いらずのノートづくり)

タブレットを活用するとノートはどうするか。新たな課題が生まれています。中島先生は、見開き2ページで1つの学習課題が完結するノート作りを進めています。左に学習プリント、右に補足や他の班の意見、そして学習の振り返り。そのノートを見返すことで、自らの理解が深まっていることを実感できるノートです。メモをとる力も育ってきたそうです。

#### ★中島先生が大切にしていること★

- 理科は考える教科、発見する教科。そこに面白みを感じられる子を育てたい。
- 社会に出た時に力になる経験を積めるようにしていきたい。  
(互いを尊重し合いながら、協働で学ぶ姿がそこにはありました。)